

第2回あさご未来会議 意見内容

1 幼小中学生の人材育成

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
地域とつながる場	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域とつながる場（移住者） ● 地域と幼小中学生が交わる（移住者） ● ふるさとを大事に思う（高校生） ● まちを好きになる（高校生） ● 郷土愛を育む ● 子どもたちの考えを反映する ● 参加して楽しい・面白いと思える ● 自己肯定感を育む 	<p>【学校での地域とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域と学校が協働した地域での活動。 ● 空き教室の活用。地域の人とコミュニケーションの場として利用する。 ● 学校の中にサードプレイスの設置。（大学生） ● 地域（自然、歴史、地域課題など）について、学ぶ場。先生は分からないので、市民からやって想いをくみ上げる機会を作る。 <p>【地域内でのコミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の中で地域の人から声かけを。 ● 見守りたいなどでのあいさつ活動。 ● あいさつ運動をする（登下校など）。 ● 親世代に地域情報を知らせる手段を持つ。 <p>【地域行事・イベント等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域行事への参加。 ● 地域行事に自ら参加する。（高校生）（複数） ● 地域行事への参加。（移住者） ● 祭への参加で地域との交流。（高校生） ● 地域の人と交流の機会を増やす。（高校生） ● 地域が一体となって取り組んでいけるような行事を作る。（高校生） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが地域行事に参加しやすくなるような楽しみやPRなどをする。 ● 園児が地域行事に引っ張りだこ。 ● 行事が多すぎる。 ● 行事が多いので、日程を重ねるなど工夫し、参加者増につなげる。 ● 地域行事の参加者が減っている。参加ハードルを下げる内容の見直し等。 ● ICTの活用方法。実体験も大切。 ● あさご未来会議のような場で話されたことを地域に知らせて、知ってもらうこと。（高校生） ● 行政・地域が一緒になって取り組むスタンスは素晴らしい。（移住者） ● 地元という選択肢を知ったうえで世界に羽ばたいてほしい。（大学生） ● 学校に地域の人が入りやすい雰囲気づくり。 ● 子どもたちが地域についてどう思っているのか改めて考える。（高校生）

		<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもだけの交流ではなく地域の方の距離が近いことを生かして交流する機会を増やす。(高校生) ● 子どもが参画しやすいイベントを計画・実施。(複数) ● 子どもから大人までが参加できる事業に(ソフトボールなど)。 <p>【地域での体験活動の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験活動 ● 地元でできる自然をつかった楽しい体験。楽しいとまたやりたくなる。 ● ハンザキ研究所で自然体験(ビオトープなど)。 <p>【地域での交流の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人との交流の機会を増やす。 ● 多くの人と対話する機会づくり。 ● あさご未来会議のような対話ができる場づくり。 ● サードプレイスや子ども食堂の設置。(高校生と地域のこどもとが交流したり、指導したりする) ● 色々な年齢の人との遊びで相手への思いやりを。 	
<p>地域とつながり魅力を知る。 (小学生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の魅力を知る ● 地域への愛着や誇りを育む ● 地域の自慢が言える(高校生) 	<p>【地域や自然の魅力に触れる・知る】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境を活かした子育て・保育は素晴らしい。(移住者) ● 自然と触れ合い、自分が住んでいるところについて知る機会。(高校生) ● 様々な自然や地域での体験活動。(高校生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人が「朝来は良いまち」と子どもに押し付けない。(移住者) ● ふるさと推し。(移住者) ● ゲームやDVDではなく、地域との交流を通して親子の絆づくりを。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事の魅力について触れる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元の資源を活用した体験活動、学ぶ機会。 ● 地域の自慢を見つける学び、体験学習の充実。 ● 体験を重視した活動。 ● 子どもたちが実体験できる工夫（出前授業など）。 ● 地域自治協議会での土曜チャレンジの開催。 ● 長期休暇のときに地域で遊び・イベントを実施。 ● 子ども会など地域でのキャンプ、イベントの実施。 ● 小中学生のときに川で遊びたかった。（高校生） ● 黒川で1泊2日、親と離れて自然を楽しめるキャンプができれば良い。（移住者） <p>【市内の魅力な仕事・企業に触れる・知る】（学校含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学生のときからどのような職業があるのかを知る機会が少ないと思う。そのような時間を作る方良い。（高校生） ● 子どものころからの職場体験活動。（複数） ● キッズワーキングチャレンジで幼いころから大人の働く姿を見たり、働く体験ができる。（大学生） ● 小中高から仕事体験。 ● あさごキッズタウン（朝来地域自治協議会）のような行事。（複数） <p>【その他、学校や地域で地域とつながる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 読み聞かせボランティアを通じた地域の人と児童とのつながりづくり。（複数） ● 昔の遊びを子どもたちに教えることは地域を愛する心を育てることにつながる。 	
--	--	--	--

<p>地域とつながり魅力を知る。 (中学生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人と関わる機会を増やす(高校生) ● 他校との交流(高校生) ● 人と関わる場を増やす(高校生) ● 地元へ帰省したいと思えるような出会い・学びの機会づくり(高校生) ● 生徒の意見を尊重。 	<p>【学校での地域とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の授業で地域と関わる。(高校生) ● 朝来市の資源を活用する。(高校生) <p>【トライやるウィークの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トライやるウィークを何の為にするのかを原点になって考え、できるように再考していくこと。 ● トライやるウィークのコンセプトを大切にし、効果が出るように受入れ事業所研修を実施。 ● トライやるウィークのコーディネート機能の充実。 ● トライやるウィークの拡大(場所を変えて2回など)。(高校生)(大学生)(複数) ● トライやるウィークの回数増。(高校生)(複数) ● 生徒たちの希望する職などトライやるウィークで体験できる選択肢を増やす。(高校生)(複数) ● トライやるウィークをもっと発展させる。 ● トライやるウィークの広域化(本当にやりたいことにチャレンジできるように)。 ● トライやるウィークを中学校区単位ではなく市内全体で。(高校生)(移住者)(複数) ● 生徒提案型のトライやるウィークの実施。 ● トライやるウィークで朝来市での生き方を知る要素を入れる。(例:野菜作り→都市部で販売など) ● トライやるウィークで職業体験だけでなく地域体験活動も加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人の意見の押しつけ。 ● 生徒のやる気をなくすこと。(希望の職場にトライやるウィークにいけないなど)
--------------------------------	--	---	--

		<p>【市内の魅力な仕事・企業に触れる・知る】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市にあるしごとの魅力を伝える。 ● 朝来市の仕事を知れる機会を作る。 ● 農業林業を充実し、仕事となることを知る。 ● ケーブルテレビを使って自主放送、企業訪問し、企業を紹介する。 <p>【地域の人との対話の場】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大人と対話・コミュニケーションの場づくり。 ● 大人と話す機会をつくる。(高校生) ● サードプレイス。 	
<p>地域・まちづくりへの参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒のまちづくり・地域づくりへの参画 ● 地域行事に子どもが主体となる場づくり ● 面白い・楽しいを体験する ● 子ども発を大切に(移住者) ● 失敗しても良い ● 多様性を認め合う 	<p>【地域・まちづくりへの参画の機会】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行事に自分たちがやりたいことを提案。(高校生) ● 企画段階で子どもが入り、大人はそれをしっかりフォローする。(大学生) ● 地域行事を子どもたちが考え、企画、実施する機会をつくる。 ● 地域行事の企画に子どもたちも参加。 ● 読み聞かせボランティアなど生徒でもできることで参画する。 ● 子ども発の意見の取り入れ。(移住者) ● 子どもの発想を大切に。 <p>【主体的な情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市の魅力を子どもが発信する。(高校生) ● 朝来市の良いところをグローバルに発信することが出来るようにインスタ講座の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成功や結果を出すことを急がない。 ● 正解や失敗を決めつけない。(移住者) ● 大人から子どもではなく、子どもから大人への発想の転換が必要。(大学生) ● 関わる大人は何もしない。(移住者) ● 大人の過剰なサービス。(移住者) ● 地域の人声かけは見守る雰囲気ぐらいで。(高校生) ● 子どもたちの意見を尊重する大人を。 ● 大人がしてほしいことと子どもがしたいことのバランス。 ● 子どもたちが SNS を活用した地元情報の発信をするには個人情報に配慮が必要。

		<ul style="list-style-type: none"> ● ローカルの価値をローカル内だけで消費するのではなく外に発信できるように。多様性を認め合うことにつながる。 ● 人から喜んでもらえる活動だとポジティブな気持ちになる。(移住者) 	
主体性・多様性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体性を育む ● 多様性を認める ● 自ら考える力を育む ● 自分の考えを持ち伝える(プレゼン) ● 自己表現 ● 個性を伸ばす ● 個性の尊重(発達障害含む) ● 積極性を伸ばす ● 将来の可能性を広げる ● 周囲に惑わされない判断と行動の大切さ(現在の判断の基準は「まわりがしているから」「仲間外れになりたくないから」) ● コミュニケーション能力を高める 	<p>【自分たちで考えて行動する機会】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ASAGoINGが目指すところ。特に「自分らしく」「自分のやりたいこと」という部分。 ● 自分たちで考えて決めて行動すること。(移住者) ● 好きなこと、楽しいこと、夢中になれることを作る。それを共有できる大人との交流。 ● 生徒の裁量が大きい機会をつくる。(高校生) ● 学校で生徒がやりたいことを決めて企画し、実効できるような機会を作る。 ● チームワークで進める。お互いに得意なことを出しあって進めていく。(移住者) ● 一つの考えを押しつけるのではなく、その考えもあるうえで自分はどうかを考えるプログラムにしては。(大学生) ● ○○はこうだから、こうしないといけないというような先生や大人たちの押しつけはやめてほしい。やりたいことをやりたいと思うことを聞いて取り入れて欲しい。(高校生) ● 勉強は苦手でも個性を発揮できる機会をつくる。 ● 個人的な意見の主張の機会。(高校生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ASAGoINGは「こういう人になるべき」というメッセージではなく、こんなにチャンスもあるよというメッセージ。メッセージの伝わり方に違いがあるので留意。 ● 大人の方が自分に変な期待を寄せること。自分にプレッシャーがかかって苦しくなる。(高校生) ● 子どもたちの理想を決めつけすぎること。可能性があるのに駄目にしてしまう。(高校生) ● 人物像を決めないで欲しい。(高校生) ● 子どもに対する親の理解。(高校生) ● 子どもがしたいということをとめる親。(高校生) ● 親への共通理解。 ● 大人の見解の押しつけ。(再掲) ● 大人たちの理想を子どもたちに押しつけていないか。(移住者) ● 子どもに対して間違った考えを押しつけるのは良くない。当たり前の基本のことだけ教えていけば良い。(高校生) ● ルールや規則などが厳しくなり自分はこういうことをしたい、こうありたいという気持ちを閉じ込

		<p>【世界とつながる機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国との異文化交流。(高校生) ● 海外の学校とネットでつないで英語の授業。 ● ホームステイを受入れ、国際交流を図る。 ● 海外留学等で交流を図る。 ● 世界を知り、今の自分や朝来市を見つめなおす。(大学生) <p>【その他の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の開放。 ● アクティブラーニングの推進。(高校生) 	<p>めてしまい、素直になれない子が増えると思う。(高校生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの主体性を失わせること。 ● 生徒の自主性を損なわせること。(高校生) ● 校則。 ● 大人の長い語り。(移住者) ● 子どもの主張の受入れのバランスの考察。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生と生徒のとの信頼関係の構築 ● 他人の気持ちを理解(高校生) ● 他人の痛みが分かる(高校生)(移住者) 	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめについて先生とかに伝えられるような先生との信頼関係をつくる。(高校生) ● 自分の思っていることを言えない人とか、いじめなどで困っている人もいると思うので、そういう人が寄れる場があっても良い。(高校生) ● 仲間を大切にする。肉体的な痛みだけでなく、心の痛みも分かり合える。(高校生) ● どうしてこのような授業をするのか、(目的とゴール)を明確に説明する。(移住者) ● ノートを ipad に。 ● 部活動等の社会教育活動を通して社会性を学ぶ。 ● 部活に必ず入部して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生も忙しすぎる。本来の教育に手が回らない。 ● 学校教育の教科指導と生活指導のバランス。 ● 低学年ほど教師がブレーキ、ネガティブ指導をすることがある。 ● 小・中学生の人間関係に先生が口出ししすぎると余計に仲がこじれます。生徒の SOS 以外は自分たちにまかせてほしい。(高校生) ● いじめや差別は生徒だけではない。先生は都合が悪くなったら立場を使って事をもみ消すことがある。(高校生) ● 時代を古きから新しいものに塗り替えるときに注意が大事。 ● 朝来市に残ってほしい、戻ってほしいということよりも、朝来市から他の地域に何かできる人を育てていくべきだと感じました。(高校生)

			<ul style="list-style-type: none">● ケーブルテレビを見ない。発信の仕方の工夫。● スマホ購入。時間を割かれ、集中力の低下。● スマホを購入するなら家庭内で使用制限時間を決めて欲しい。● いじめの芽をつむ。スマホはほどほどに。● SNS がすべてではなく自分の目で見て現実を判断出来る人間になってほしい。(移住者)
--	--	--	--

2 高校生・大学生等の人材育成

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
地域とつながる場	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域・まちの良さを知る ● シビックプライド醸成 ● 地域での居場所 ● 気軽に集える場 ● 多様な人との対話の場 ● 参加の魅力・楽しさ・面白さ ● 市外転出者とのつながる情報発信 	<p>【地域コミュニティとのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域とのつながりづくり。顔見知りの関係。 ● 地域住民の関わりを増やす。(高校生) ● 負担感を感じない地域行事への参加。 ● 自治会活動のハードルを下げる。 ● 高校生の自治会活動の参加。 ● 地区・学校でのイベント行事を増やして地域とのつながりをつくる。(大学生) ● イベントを増やして帰るきっかけをつくる。 ● 参加したいと思える、魅力的な地域行事。 ● 大人自身が学習する場をつくる。 <p>【地域の人との対話の場・交流の場】(学校含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校での地域を知るための授業の継続。 ● 中高生リーダー研修会のような中高生(大学生)だけの対話の場づくり。(大学生) ● あさご未来会議のような催しは良いきっかけ。 ● 社会人との交流の場づくり。 ● 多職種・多世代がつながる場づくり。 ● 普段から対話しやすい環境づくり。(大学生) ● 気軽に会話できるような場をつくる。(高校生) ● 身近な人との話が聞けるような場づくり。 ● 地域内で大学生高校生の交流の場を作る。 ● ASAGoING な人が高校の出前授業に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者の自治会への参加を強要しない。負担軽減。 ● 地域の取り決めに柔軟に変えていく。 ● 自治会の活動を減らす。増やさない。親の負担感が子どものイメージにつながる。 ● 子ども会は中学生までで高校から地域とのつながりがなくなる。(高校生) ● 受験などもあるので地域からは高校生へ声をかけづらい。 ● サードプレイス活用している人が少ない。(大学生) ● サードプレイスを学校でするのも良いが、地域の大人が関わられるように。 ● 中高生の意見も聞いて進める。(移住者) ● 高校生の声をしっかり聴く。 ● 朝来市を出た若者へのアプローチ不足。情報提供が少ない。(大学生) ● 地元を離れて学ぶ人に地元を伝える手段がない。(大学生) ● 高校生・大学生に向けた情報発信の仕方。(高校生) ● 情報発信の方法の工夫。(複数) ● 地域情報は朝来市だけでなく、他地域のことも知る機会を。

		<ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市で活躍する人の成功体験を伝える。 ● まちの魅力だけでなく、人を知る機会づくり。 ● 魅力的な大人の姿を見たり話をする機会づくり。 ● 進学校でも受験のための勉強だけでなく地域で暮らす・稼ぐための勉強を。 ● 高校生から将来を考える大学生との対話の場。 <p>【サードプレイス等での地域とのつながり・ 中高生の居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人と交流できる場をつくる。 ● サードプレイスの増設・新設。(複数) ● サードプレイスの場所を増やす。通いやすい場所や参加しやすい場所。(大学生) ● サードプレイスを公立小・中・高校に出張。 ● サードプレイスの学校の空き教室利用。 ● サードプレイスを校内に。(複数) ● サードプレイスの存在を市民へ周知する。 ● サードプレイスで地域の人と高校生が交流できる工夫をする。 ● サードプレイスで大人に出会いに行くのではなく、いたところに地元の人がいるような場。 ● サードプレイスの場所は中高生になじみのある場所が良い。(移住者) ● サードプレイスのように誰もが利用しやすく、楽しめる場。 ● サードプレイスの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者へ配慮した情報発信も大切。 ● 地元情報をリアルタイムに受信できるツール。 ● 朝来市や養父市、和田山高校や生野高校など小さな範囲で物事を切ってしまうと、連携を。 ● 自己実現のためには都会に行かないとかなえられないイメージと情報がある。 ● 家庭で大人が地域活動のことを悪く言わない。日役が嫌だなど。子どもは大人の背中を見ている。
--	--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども食堂、サードプレイスなど集まれる場。 ● 子ども食堂など子どもだけでなく地域の人みんな で集える場づくり。 ● 子ども食堂を有効に活用し、サードプレイスにし ていく。(大学生) ● 高校生が学校以外でも勉強できる場所。(複数) <p>【朝来市出身者等が地域とつながる情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 田舎暮らしの良さを知ってもらう機会をつくる。 ● 市外に転出した人と色々な方法でつながる。 ● 朝来市出身の市外在住大学生に対してアプリなど を活用してつながりを持つ。 ● 朝来市を出た若者へ同窓会を活用した情報提供。 (大学生) ● 高校 OB 会と連携して、出身者へ朝来市情報を発 信する。 ● 地域情報の発信はアナログからデジタルへ移行し たら良い。(移住者) ● スマホを利用した情報発信。 ● 若い人が情報を見るために大学生など若い人が情 報発信する。 ● 朝来市の情報発信アプリを作り、高校生の間に登 録してもらおう。仕事情報、行事、カフェ情報な ど。(大学生) ● 朝来市外の高校に通っている高校生への朝来市の 情報が伝わる体制づくりが必要。(高校生) 	
--	--	--	--

<p>地域・まちづくりへの参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域・まちづくりへの参画 ● 地域・まちで、大人も楽しむ。大人が楽しむ姿は影響する。(移住者) ● 参画の魅力・楽しさ・面白さ 	<p>【地域活動への参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の良い点や改善する点などを知ったり考えた場をつくる。 ● 高校生に頼りたいことを伝え、地域で活躍してもらおう。地域に役に立っていることを体験する。 ● 「手伝って！」と高校生に言える大人を増やす。 ● 地域活動でも気軽に参加できるもの。 ● 高校生の頃から地域の活動にボランティアなどとして参加する。(大学生) <p>【サードプレイスや子ども食堂への参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サードプレイスに大学生が参画、運営する。 ● 子ども食堂の実施とボランティアへの参加。 <p>【主体的な情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生や大学生が自ら興味あることを情報発信。 ● ケーブルテレビで若者が番組を作る。朝来市の紹介や中高生をゲストにする。(大学生) ● 地元出身大学生と高校生が作る若者向けケーブルテレビ番組。(複数) ● 若者のケーブルテレビの活用。 ● 高校生・大学生の地域での動きを情報発信する。子どもがいない家庭は知る機会はないため。 <p>【まちで楽しむ大人の姿を知ることで動きを牽引】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大人が楽しんでいる姿を見せる。 ● ASAGOiNG な人の You-tube 発信。 ● 朝来市で活躍する人を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人が「大丈夫。やってみたら！」と言える器を持って声をかける。
---------------------	---	---	---

<p>魅力あるしごとに触れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内企業の魅力を知る ● まちの魅力を知る ● 起業人材の育成 	<p>【市内企業・起業の魅力を知る機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業・働く人を出会い知る機会づくり。 ● キャリアトークカフェやしごとゼミなど社会人と高校生が対話できる場があること。(大学生) ● キャリアトークカフェの充実。 ● 大学卒業後、どうしたら朝来市で働けるかを知りたい。(高校生) ● 高校生と働く人との関係(距離)を縮める場づくり。 ● 朝来市の仕事を自主的に調べる機会。(高校生) ● 朝来市にどんな仕事があるのかを伝えること。(大学生) ● 高校生の中に地域企業を知る機会をつくる。 ● 企業紹介だけでなく、どのような職種があるかを紹介する。 ● 朝来市の企業・起業家の話を聞く機会。 <p>【インターンシップを通じて企業等の魅力を知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業と連携した大学生の有償インターンシップ。(複数) ● インターンシップの有償化。有償だとメリットもあり参加しやすい。(大学生) ● 大学と地元企業と連携した単位付与と有償のインターンの実施。(複数) ● 福知山公立大学と連携した単位に加えられるインターンシップ。(大学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成功者の話ばかりの一方的なキャリアトーク。 ● インターンという仕組みがすべてではない。 ● 絶対に地元で就職、絶対にUターンなど今いる大人たちが強制しないこと。 ● 帰ってくることを強く指導しすぎない。 ● 地元に対する親のネガティブ意見。 ● 但馬には雇用がない、給料が安いなどといった根拠のないマイナスイメージがある。 ● 学校での学びが仕事にどうつながるかを伝えることも大切。(複数) ● Uターン希望者に対する奨学金支給などの検討。
--------------------	---	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ● インターンシップには交通費などの支援が必要。 ● 大学の長期休暇を利用して地元企業での短期アルバイト。アルバイトの斡旋。(複数) ● 高校でのインターンシップ。(大学生)(複数) ● 高校生の地域での職業体験。 ● 進学校も高校生の職場体験。(移住者) ● 色んな職業を複数回体験する。(高校生) ● 地域活動を知るインターンシップを大学生向けに行う。 ● 市役所インターンで行政についてだけでなく地域についても知ることが出来る。(大学生) ● インターンシップで仕事だけでなくまちの魅力を魅せる。 ● アルバイトをサービス業だけでなく多様な仕事でもできるように。 <p><u>【ケーブルテレビ等を活用した企業の魅力発信】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ケーブルテレビを活用して職場体験活動の放送。 ● ケーブルテレビを活用して企業の魅力を発信。 ● 地元企業の魅力を発信。 ● 地元の仕事の魅力を高校生へ発信。(高校生) ● 企業の魅力の見える化。 <p><u>【アントレナーシップ教育】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● KOUBA のような場の促進。 ● 起業の仕方のレクチャーの場。 ● やりたいことを仕事にすること。 	
--	--	--	--

<p>主体性・多様性を育む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 個性そのものが魅力 ● 主体性・多様性を育む 	<p>【多様な挑戦する場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学生のまちづくりアイデアコンテスト（賞金つき）。 ● 自分たちでやりたいことに挑戦する。 ● 地域で挑戦できる場。（大学生） ● 高校生のやりたい子をまちで挑戦できる場をつくる。 ● 地域活動に参加することで学校の単位取得につながる。 ● 学生時代に地元で作る成功体験。 ● 生徒が自主的に将来を考える機会づくり。 ● わだやマーケットのような生徒の裁量が大きい機会。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人は立派であるべき、しっかりしているべきという固定観念を除く。 ● 大人が失敗したり悩んだりしていることを隠さず明かしていく。
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 市外の人でも ASAGoiNG な人を見つけることができるしくみづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成には継続性が必要。 ● 進学を第一に考える高校のカリキュラムとのズレ。

3 ASAGOiNG な仲間を増やす移住推進

区分	キーワード	具体的な取り組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
移住の効果		<p>【移住による効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 色々な魅力的な人に出会える。一員になる。 ● 移住者は地域の宝。 	
受入れ体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な人と出会う機会 ● 地域の受け入れ体制の充実 ● 地域情報を細やかに伝える ● 地域と移住者をつなぐ人 ● 移住者交流の機会 ● 主体的な地域の取り組み 	<p>【多様な人と出会う場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あさご未来会議のような不特定多数の人が集まる場をつくる。(移住者) ● あさご未来会議のような地域の皆さんで未来を話し合う場。(移住者) ● 人材交流のプラットフォームづくり。 ● 移住者だけのコミュニティになると地域の人が入れない。多様な人が入る交流の場づくり。 ● 色々な課題を多くの人と話すのは良いこと。 ● 地域の人との交流の場づくり。 <p>【地域コミュニティなど地域での受入れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の皆さんのサポートはとてもありがたい。(移住者) ● 移住サポーターを育成。 ● 移住サポーターを増やす。 ● 移住者と地域を結ぶコーディネーターが大切。 ● 移住者又は移住希望者と地域をつなぐ人が必要。 ● 移住のきっかけになる人以外の移住者へのサポートを増やしていくことが大切。 ● 困った時に助けてもらえる人の存在。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住者への排他的な考え方がある。(複数) ● ムラ意識の開放。 ● 説明できないローカルルールがある。 ● 地域情報が役員だけの共有になっていて、一般市民には情報が来ない。(移住者) ● 自治協の運営のあり方を見直してほしい。もう少し参加型で。オープンな組織に。 ● 地域ごとにやる気の差が出ている。(大学生) ● 地域によって移住者ウェルカムのところとそうでないところの差を感じる。(移住者) ● 区によって差がある。 ● 自治協によって格差がある。 ● 地域の危機感に地域で差がある。 ● 生活や仕事の情報が入りにくい。それを踏まえること。 ● 移住してアパートに住めば地域情報が入ってこない。(移住者) ● 移住者に対してのコミュニケーションが少ない。(移住者) ● 地域行事を強制しない。(移住者)(複数)

		<ul style="list-style-type: none"> ● 移住者と自治会との関わりの重要性。安心して生活できるようサポートが必要。(移住者) ● 地域に入るとっかかりが必要。 ● 地域行事等の事前説明。 ● 移住してきた人にも分かりやすいように地域活動へ誘ってほしい。(移住者) ● 移住者へ積極的な声かけ。風通しの良い地域コミュニティづくり。 ● 移住者へ地域情報の提供。 ● 移住者への情報提供と移住後のケア。(高校生) ● 移住者への心遣い、気配りを大切にする。 ● 地域住民が移住者に対して開放的であってほしい。(移住者) ● 行事などは移住者と地域の人とが触れ合える良い場である。(移住者) ● 家族ぐるみで参加できる地域イベント多くする。 ● 移住者でも参加しやすいイベントに。 ● 自治会での移住者の対応。 ● 受入れの広い心を持つ。 ● 地域の有志で困っていることを助ける。 ● 地域で主体的に助け合う。 ● 補助金創設し、自治会内の親睦の機会を増やす。 ● 地域での懇親会を地域の活性化させるアイデアの出る場とする。 ● 子育てしやすい地域環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域行事には絶対参加しなければならないというムード。 ● 農業移住者の負担はもう少し楽にした方が良い。(移住者) ● 無理に誘うのではなく、それとなく声をかける。 ● 移住者に古い慣習などを押しつけない。(複数) ● 住んでいる人の意識改革が必要。(高校生) ● 受入れ地域の意識改革。 ● 移住者に自治会の入会金などで負担をかけない。 ● 移住者に来てほしいだけでなく、実際の移住者に親身になれることが大切。 ● 地域自治協議会単位の受入れの差が出てきており、最低限の移住後の相談の窓口は行政がすべきではないか。 ● 地域と行政の連携。(移住者)(複数)
--	--	---	---

		<p><u>【行政の体制】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市職員と地域住民の関係が強い。(大学生)(複数) ● 地域と行政とのパイプ役を増やす。 ● 行政と市民との溝を埋める。つながりを深める。 ● 自治協に用途のパイプ役をつくる。 ● 市役所と自治会との対話の場づくり。 ● 市役所サロンをして欲しい。(移住者)(複数) ● 色々とスキルのある市内の人と移住者をつなげる役割をする。(移住者)(複数) ● 移住者に対して定期的なアンケート調査の実施。 ● 移住者の意見をもっと政策に反映させる。 ● 空き家バンク・補助金等市としての取組みを評価。(移住者) ● 移住者への支援制度の充実。(移住者) ● 移住支援制度の継続。(移住者) ● 移住者への支援制度の充実継続。 <p><u>【移住者相互の交流】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者間の交流が必要。 <p><u>【移住起業支援】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者の起業は地域との連携が不可欠。 ● やりたいことを仕事にする。 ● やりたいことが実現しやすい。 ● 色々とスキルのある人をつなげる場をつくり、それぞれの仕事につなげる。 	
--	--	--	--

<p>空き家バンク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンクの充実 ● 地域で支える 	<p>【空き家バンクの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンクの充実。(複数) ● 空き家バンク登録数が増える取組みを。 ● 市と区が力を合わせて登録数を増やす。 ● 空き家を売る・買うだけじゃなく、賃貸のすすめ。 ● 空き家のリフォーム。 ● 空き家利用による活性化。(移住者) ● 空き家がない。空き家はあるけど空き家バンクに登録しない空き家が多い。 ● 住宅改修費の助成をもう少しあげる。 <p>【空き家の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家を維持していく活動。 ● 空き家の手入れ。(大学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンク登録への消極的な思いがあり、意識改革が必要。(移住者) ● 空き家の内情(貸してもらえるかなど)が共有できていない。
<p>移住推進の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ターゲット層に応じた情報発信や取組み ● 説得力のある情報発信 ● 地域主体の取組みが受け入れ体制につながる ● 移住前からの地域とのつながりづくり ● 移住の取組みを市民へ周知 	<p>【ターゲット層】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ターゲット層を家族層に限らず、婚姻などにつながるように単身者していくのも良いのではないか。 ● 移住者のターゲット層を絞って進める。(大学生) ● 商業施設を活用してもらえるような起業人の移住を推進。 ● 地域課題とマッチングした移住推進。 ● 地域おこし協力隊制度を活用した林業希望者の募集。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 補助金で縛る仕組みは再考。 ● 税金での移住支援は、それ目当てに来る人もいる。選んだ方が良い。(移住者) ● 移住を前面に出して求めるのはハードルが高い。(移住者) ● 地域住民に危機感を持ってもらうこと。 ● 人口減少の危機感、なぜ食い止める必要があるのか市民に浸透していない。 ● 市の施策情報があまり知られていない。 ● 移住施策を知らない市民も多い。市民へも情報発信を。(大学生)(複数)

	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係人口 ● 新規就農者・新規起業者への支援 	<p>【移住推進に向けた取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市での暮らしがイメージできる参加型イベントの実施。 ● 家族ぐるみで参加できる体験イベントの実施。(移住者) ● 子育て環境の充実。(大学生) ● 保育料や経済的な支援は重要。 ● 移住体験会の開催。(大学生) ● 体験住宅の取組み。(複数) <p>【新規就農者への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農業を目的とした移住者への支援の充実。 ● 農地と空き家のコーディネート。(移住者) ● 農林業の省力化。 ● 林業体験会の開催。 ● 農地を利用しやすいように支援。 <p>【地域主体の移住推進に向けた取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の移住推進の活動の支援。(複数) ● 地域有志で体験住宅の設置。 ● 空き家を使って民泊などの実施。 ● 移住体験会の開催。地域でウェルカムな心で。 ● 地域の空気感が移住の決め手になった。(地域の受入れ、同世代交流、農地など)(移住者) ● 与布土地域では、移住前から地域の人と出会う機会があり、安心し、生活のイメージができた。(移住者) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や移住者を受け入れることについて危機感を持っている市民が少ない。朝来市の未来に関わる重大な問題であると市民に浸透させるのは行政の責任。 ● 朝来市の取組みを市民にPRする。(複数) ● 市民の「朝来市なんか…」という考え。 ● 行政への過度の期待・意識を改める。(複数)
--	---	---	--

		<p>【朝来市への移住の価値の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者が「住んで良かった」と思っていることをデータで示せるように。(移住者) ● 移住者自らが発信する。 ● 市民自ら住みよいまちであることを発信。 ● ASAGOiNG な仲間を増やしていこう。(高校生) ● 市民一人ひとりがまちで主体的に熱い想いを持っていて動いていること。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが生き生きとしているところを PR。 ● 移住希望者への地元情報の発信。 ● 地元の人のかさで住んでみた印象が変わる。それを情報発信。(移住者) ● 季節を感じる事が出来る情報発信。 ● 情報発信は口コミの効果が大きい。 ● 都市部と朝来市との生活に必要なお金の比較が出来るような説明があると分かりやすい。 ● 都市部での移住についての PR。 ● SNS による PR。(大学生) ● 移住支援制度の PR。(複数) <p>【関係人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関係人口をつくる取組み。(複数) ● 地域住民が自由に交流できる場づくり。 ● いきなり移住ではなく、朝来市と関わっていくしくみをつくる。 	
--	--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ● 山村留学のような子どもが生き生きとする取り組み。 ● 朝来市のファンをつくる。 <p>【市内に向けての周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市内に施策推進をPRすること。(高校生) ● 朝来市での暮らしの現状を理解することが必要なので体験を増やす。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● 移住だけでなく定住の施策も。 ● 公共交通の充実。 ● 交通手段が少なくなるだけでなく代替の方法を考える。 ● 交通手段の利便性を高める。(大学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● I ターンのみ施策のターゲットを絞ることは良くない。 ● 移住者ばかり手厚いという地元若者の意見もある。 ● 企業誘致に期待すること。 ● 大きな企業ばかりに頼るな。(移住者) ● ゴミ袋を安くしてほしい。(移住者) ● ガス・水道代が都会より高め。 ● 家からバス停の距離が遠い。(大学生)